式　辞

早稲田佐賀中学校・高等学校の新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。また、保護者の皆様におかれましても、お子様のご入学を心よりお喜び申し上げます。

本日ここに新たに中学校 143 名、高等学校 243 名が入学いたしました。コロナ禍により来賓のご臨席もない簡素な式典となったのは残念ですが、このように対面で新入生を迎えることができ、教職員一同、喜びにたえません。

さて、今年は本校がその DNA を受け継ぐ早稲田大学の創立者大隈重信侯の没後 100 周年です。皆さんは今日、大隈像の後方に展示されている石に気がついたでしょうか。これは先月末、佐賀県により設置された「高輪築堤」の石を展示したものです。

1872 年（明治 5 年)、日本初となる鉄道が新橋・横浜間に開通しました。それは当時としては大事業であり、その壮大な計画を成功に導いたのは、佐賀の偉人・大隈重信侯です。鉄道開業に至るまでには、資金の問題、地元住民や軍部の反対などさまざまな困難が立ちはだかりましたが、大隈侯は陸地が駄目なら海に堤を築いて線路を通そうと決断しました。だれもが驚く奇想天外な計画でした。有明海を干拓地に変えてきた佐賀藩の技術力や歴史から着想を得たのではないかとも言われています。その時に作られたのが約 2．7 km の高輪築堤で、東京都港区の JR 山手線高輪ゲートウェイ駅周辺工事の際に発見されたものです。

その他にも大隈侯は 30 歳で明治新政府に登用されて以来、約 50 年もの長い間、二度の総理大臣就任や早稲田大学創設はもとより、通貨「円」の制定、太陽暦の導入、統計制度の確立、女子教育の推進など、世界水準の新しい国家を作るために比類なき先見性や想像力を発揮し、日本の近代化に向けた数多くの事業を牽引しました。

一世紀を経て現代は ICT の進化がもたらすソシエティ 5.0 の時代。明治維新に匹敵する大変革時代の始まりです。私たちは今、わが国の未来を左右する重要な分岐点に立っているように思われます。経済発展と社会的課題の解決を両立させるためには仮想空間と現実空間を高度に融合させたこれまでにないシステムを確立しなければなりません。しかし、そのためには単に先端技術力を高めるだけでは不十分です。構築には大隈侯が持ち合わせていたような大胆な発想と緻密な構想力が不可欠で、そこには人間を中心とした思想が貫かれていなければならないのです。早稲田大学の田中愛治総長は「たくましい知性」と「しなやかな感性」の必要性を訴えています。正解のないあるいは正

解が一つとは限らない問題の解決には圧倒的な知性が必要なことは言うまでもありません。しかしその基礎となるのは人間の多様性を認め、他者の心の痛みがわかる豊かな感性や想像力です。

国立情報科学研究所が中心になって取り組んだ「ロボットは東大に入れるかプロジェクト」、通称東ロボくんプロジェクトの挫折がそれを物語っています。最先端の AI 頭脳を持つ東ロボくんは膨大な情報をもとに解答する世界史が得意で、数学・物理もかなりのレベルまで達しました。しかし、英語はリスニング、筆記ともに苦戦し、国語も偏差値 50 を下回りました。複数の文章を総合的に理解して解答するのが苦手だったのです。

プロジェクトクトリーダーの新井紀子氏は「深層学習（ディープラーニング）を含む現状の技術の延長線上では AI が東大に合格する日は永遠に来ないだろう」と述べ、「自らの実体験に基づいて想像力を働かせ、未知の世界をより深くイメージできる力が必要となってくる」「実体験に基づいた論理的な推論力がないと AI を超えることはできない」「人間が AI と違うのは高度な読解力があること。読解力は、将来 AI やロボットと仕事を分け合う可能性のある子どもたちにとっては何より大切なもの」などと総括しました。つまり、リアルな実体験に基づいた想像力や推論力を高め、加えて豊富な読書に裏付けられた読解力がなければいくらコンピューター理論やその活用に長けていても、どれだけ試験の偏差値が高くてもそれだけでは世の中に役に立つ人間にはなれないということです。

コロナ禍でオンライン授業を余儀なくされ、それによって全国の学校がそのメリットを実感する一方、学校が再開されると私たち教師はやはり教育の価値は PC の画面を通してだけでは得られないということも確信しました。オンライン学習では試験問題を解く能力は高められたとしても、教師や級友との交わりから生じる人情の機微を知ることはできませんし、感性を磨くこともできません。表情や言葉遣いから相手の感情を読み取り、息遣いを感じながらコミュニケーションを図る。そんな経験は絶対にオンラインではできないのです。

ここ唐津には長い歴史や多様な文化、豊かな自然があります。コロナ禍以前には民泊として自宅を提供し全国から年間 4000 人を超える修学旅行生を受け入れてきた開放的な土地柄でもあります。山の斜面や埋め立て地に立地する学校とは違い、生徒たちの周りには温かくも時には厳しい地元の人々の目があり交流もあります。本校生の出身都道府県は 30 以上を数え、6 割以上が寮生活を送っています。いろいろな意味でリアルな

実体験を積む場としては申し分ありません。もちろん学校や寮では楽しいことや嬉しいことばかりが待っている訳ではありません。時には友人とうまくいかなかったり喧嘩をすることもあるでしょう。先生方の指導に納得がいかず不満を抱くこともあるでしょう。しかし、私たちはそれもこれも皆さんが大きく成長をする過程で必要な実体験の一部であると考えています。そのことこそ AI 時代に生き、ソシエティ 5.0 の時代を切り開く皆さんに求められることなのです。

最後になりましたが、保護者の皆様におかれましては、お子様の教育を本校に託して頂き誠にありがとうございます。教職員一同、誠心誠意教育活動に取り組んで参る所存です。しかし、本校では生徒をお客様扱いするようなことは致しません。「ならぬものはならぬ」の精神で時には厳しく指導する場面もあるかと思います。ご理解とご協力の程よろしくお願い申し上げます。

結びに、本日入学した 386 名の新入生の皆さんの健やかな成長を祈念し、式辞とします。

2022 年 4 月 7 日

早稲田佐賀中学校・高等学校　校長　島本幸三